

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-----------------------------|----|-----------|
| ○事業所名 | 療育支援工房 有田教室 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日 | | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 63 | (回答者数) 13 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年 1月 23日 ~ 2026年 1月 31日 | | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 6 | (回答者数) 6 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | R8年 2月 2日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|--|
| 1 | ・職員間の情報共有ができています。 | 日々のミーティングを通じて、子供の様子や支援内容を職員間で共有し、支援の統一と質の向上に努めている。 | 日々の申し送りやミーティングに加え、支援の振り返りの時間を定期的に設け、支援方法や関わり方について職員間で意見交換を行う。共通理解を深めることで、より一貫性のある支援につなげていく。 |
| 2 | ・SSTを通じたコミュニケーション力の育成 | SSTを日々の支援の中に取り入れ、あいさつなどの社会性、気持ちを言葉で伝えるなど、生活場面に即したコミュニケーション力の向上を図っている。 | SSTの内容を日常の活動や生活場面と結び付け、学んだスキルを実際の関わりの中で繰り返し経験できるよう支援する。また、子どもの発達段階に応じた目標設定を行い、段階的なSSTの充実を図っていく。 |
| 3 | ・保護者様への報告、連絡、相談の早急な対応 | 送迎時や記録、面談等を活用し、日々の様子や支援内容を保護者に伝えることで、家庭と連携した支援を行っている。また、保護者様からの利用児に関する情報が入った場合は職員間で共有を行っている。 | 職員間で共有を行い、保護者の思いや困りごとを丁寧に把握する。家庭と事業所で情報を共有し、連携した支援につなげていく。また、対応する際に保護者様目線だけではなく、利用者の目線にもなって話を行う。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 人数や時間の制約により個別対応が難しい場面がある。 | 集団活動を中心とする中で、個別に丁寧な関わりが必要な子どもへの対応が十分に行えない場合がある。 | 集団活動の中でも個別の関わりが持てるよう、ミーティングを通じて活動内容や役割分担を工夫する。また、短時間でも一人ひとりと関わる時間を意識的に設け、子どもの状況把握と丁寧な支援につなげていく。 |
| 2 | SSTで学んだ内容の日常場面への定着に課題がある。 | SSTの場面では適切な関わりが見られる一方、日常の遊びや生活場面において、学んだスキルが十分に活かされていないことがある。 | SSTで学んだスキルを日常の遊びや生活場面で活用できるよう、職員が意識的に声かけや振り返りを行う。場面に応じた具体的な言葉掛けを行い、成功体験を積み重ねられるよう支援していく。 |
| 3 | 支援の評価・振り返りが職員ごとに差が出ることがある。 | 情報共有は行っているものの、支援の振り返りや評価の視点について、職員間で捉え方に差が生じる場合がある。 | 支援のねらいや評価の視点について職員間で共有し、定期的なケース検討や振り返りの時間を設けることで、支援内容や評価の統一を図っていく。 |